

令和6年10月

東京都建設局

## 「土砂災害防止に関する絵画・作文」

### 令和6年度 受賞作品決定のお知らせ

東京都では、6月の土砂災害防止月間の一環として、小・中学生を対象に土砂災害防止に関する絵画・作文の募集を行いました。その結果、合計で60点の応募がありました。その中から選考を行い、絵画の部（小学生）3点、同（中学生）3点、作文の部（中学生）2点の受賞作品を決定しましたのでお知らせします。

## 建設局長賞 絵画の部(小学生)



八王子市立  
緑が丘小学校  
5年 椎木 瑠海さん

## 建設局長賞 絵画の部(中学生)



江戸川区立  
松江第二中学校  
2年 中村 優希さん

## 河川部長賞 絵画の部(小学生)



目黒区立  
不動小学校  
4年 豊岡 一颯さん



東久留米市立  
第三小学校  
6年 成田 桜さん

## 河川部長賞 絵画の部(中学生)



八王子市立  
桐田中学校  
1年 佐藤 麗さん



葛飾区立  
常盤中学校  
1年 勢 碧玖さん

災害の報道とスマートフォン

新宿区立西早稲田中学校 二年

秋永 橘香

梅雨や台風の時期となると、災害のニュースを聞く機会が多くなる。

毎年のように、突然の土石流が家屋を巻き込み、子供を含む家族が行方不明、悲しいニュースを聞く。聞く度に、被害に遭われた方、残された親族、二次災害のおそれがあり救助に行きたくても行けないレスキューの人たちのことを想い、胸が締めつけられる。

数週間の後、災害のニュースはテレビの報道からすっかり姿を消してしまふ。これとともに、災害の悲しみは、私も含め人々の記憶からも消え去ってしまう。心の底に自分の住む場所じゃなくてよかったという思いがあるからだと思う。

また、報道は時間が経つにつれ、被害を伝えるものから、自治体の避難指示が遅かった、責任者が不在であったなど、誰かを非難するものへと変化することがある。災害を誰かのせいにしたいのか。と思うことさえある。

他に報道すべきものがあるのではないか。例えば、上手に避難して危機を逃れた。避難時にこういうものがあったので助かったという情報など。これらの情報がテレビで報道されれば、救われる命もあるはずだ。

一方で、台風や豪雨の時には、「注意して下さい。外出は控えてください」警告がされる。しかし、これを無視して外出し、被害を受ける方もいる。自分の住んでいる所は安全だ。自分は災害になんて遭わない、根拠のない自信があったのではないか。もし、正しい情報があれば、外出を思い留まり、被害を回避できたはずだ。

つまり、自分の身を守るには、正しい情報を入手し、自らが置かれている状況を理解し、冷静に行動することが必

要ということだ。

一方、自分のことを振り返ると、住んでいる地域について調べず、安全な地域に住んでいると思いついでいることに気が付いた。

そこで、国土交通省のホームページで東京都の土砂災害の発生件数について調べてみた。その結果、東京都でも毎年ではないが、土石流やがけ崩れが数多く発生していることを知った。

さらに、東京都土砂災害危険度情報のホームページで、都内のどこに土石流、がけ崩れの危険が潜んでいるのか調べることにした。安全な所に住んでいることを確かめたかったからだ。

結果は驚くべきものだった。小学生時代の通学路に面した斜面が土砂災害警戒区域、土砂災害特別警戒区域に指定されていた。その斜面を気に留めたことはなかったが、雨の日は傘を差しているため、斜面の異常に気付くのは難しい。豪雨の時はなおさらだ。土砂崩れが発生すれば、逃げられず巻き込まれてしまうだろう。自分が住んでいる地域のことを全く知らなかったことを反省した。

また、その通学路には、土のうステーションがあったことを思い出した。近くには川や水路がないので、家が浸水することは到底考えられない。だが念のため、新宿区の洪水ハザードマップで周辺を調べてみた。

私の家は、水深0・1mから0・5mの想定浸水範囲に入っていた。周囲と比べてわずかに標高が低いため浸水の危険があるのだ。

幸い生命に関わるものではないが、またしても、自分の不勉強と間違った認識が明らかとなり、反省した。

我が国の国土は、三分の二を森林が占め、地形が急峻で谷地、崖地も多い。この国土と四季が美しい風景や豊かな自然を形成している。しかし、気象現象である大雨、台風、大雪は時に大きな災害をもたらす。

このため、土砂災害を防止するため、砂防堰堤や地滑り対策のハード対策が計画的に行われている。だが、近年では、気候の変化により、予想を超えた大雨が災害を引き起



こすことも増えており、避難のための情報提供などのソフト対策も強化されている。

私は、情報があることすら知らなかったが、使うかどうかとも個人の判断だ。災害はいつどこで起こるかわからない。一方、正しい情報を基に速やかに避難すれば命は救われる。土砂災害から身を守るため、自分の身は自分で守るという自覚を持った上で、情報を把握し、避難できる準備をしておく。その上で、災害が予想される時には、自治体などから提供される情報を確認し、冷静かつ速やかに行動することが必要だ。

スマホをSNSや動画の視聴だけに利用するのはもっていない。今や、リアルタイムで土砂災害の危険度が確認できる。常にスマホが手放せないと思っている人は、ぜひ、防災情報の入手にも使ってほしいものだ。

私は家族との連絡のみにスマホを使っているが、これからは、自分、家族、友達を守るため、防災情報の入手に利用するつもりだ。

## 土砂災害の恐ろしさ

学習院女子中等科

二年 土屋 妃穂

「おかん！走れ！早く！おかん！」  
ネットニュースの動画で聞いたこの悲痛な叫びに私は何とも言えない歯がゆさを感じた。

今年の一月一日午後四時十分頃、めでたいはずの元旦の日に石川県を中心として北陸地方を襲った能登半島地震。この揺れによる家屋の倒壊だけではなく海沿いの地域には大きな津波が倒来し、多くの人々が巻き込まれた。その中でより強く自然の大きさを感じ、考えを行動に移すことの大切さを学んだ報道がある。地震発生後にネットニュースで見た土砂災害の様子を映した映像だ。おそらく山間に住むご家族の方が撮影したのだろう。そこには怒涛の勢いで押し寄せる土砂と、それが見えていないのかなかなか逃げようとしないう撮影者の両親と思われる方、そして迫りくる土砂を見て早く逃げるよう急かす撮影者の方の叫び声が映されていた。私はまずその映像を見て怖い、と感じた。山の上の方から流れてくる土砂は奥に建っていた別の方の家をまるでそこに何もなかったかのように一瞬で押し倒して流れていく。土砂であることが嘘に思え、水だと言われても何ら違和感がないほどに速かった。さっきまでとても遠くにあると思ったら、次の瞬間にはすぐそこまで来ている。これはもはや山の津波だ、と思った。こんなものが自分の前に現れたらと想像するときと人間の力でどうにかなるものではないしとても怖い。しかし、映像では目の前まで土砂が押し寄せているにも関わらずなかなか走って逃げようとしないう方もいる。しかもその方々に対して、撮影者の方がずっと声を張り上げて「走れ！早く！」と叫んでいた。こんなに土砂が押し寄せているのにどうして逃げないんだろう、お願いだから走ってくれ、そんな撮影者の心の内が

見えた気がする。最終的には逃げていなかった方々も撮影者の声掛けによりすんでのところまで逃げる事ができていたため私もほっとしたが、それと同時になぜもっと早く地震が来た時点で、遅くとも最初の声掛けの時点で走って逃げなかったのか疑問に思った。

人の心理には緊急時にこれくらいなら大丈夫だろうと判断してしまう「正常性バイアス」と、皆と一緒にだろーと思ってしまう「同調性バイアス」の二つが存在するという。そしてこれらの心理は災害時の避難を遅らせてしまうかもしれないのだ。

おそらく先ほどの映像で早く逃げられなかった方々は、まだ大丈夫だろう、そんなに深刻にならなくても、と思ったのだろう。特に土砂災害は津波などよりはその危険度が周知されていない気がする。私は、あのように早く逃げられなかったことは誰かが悪かったわけではないと思う。誰だっていつもと違うことが起こると、きっと大丈夫だと思おうとするし、落ちついて判断できなくなるからだ。私だって普段は早く逃げなきゃ、と思っているもいざ災害が起こったときそのように行動できるかは分からない。でも、だからこそあの映像を見て災害時は情報をしっかりと確認して、必要があればあれこれ考える前に動くのが何よりも大切だと思った。土砂災害は主に山間部で起こるが、そこにはお年寄りの方や子供などの様々な方がいる。よって、単に自分だけで考えて行動するのではなくてあの映像の撮影者の方のように周囲への声掛けをすることも重要であると思う。また、地震や津波は地震大国の日本においてその恐ろしさが知られているが、土砂災害も同じく、またはそれ以上に怖くて簡単に命を奪ってしまうことは少し周知度が低いように感じる。特に若い世代だ。私もあの映像を見るまで土砂がこんなに速いとは思っていなかった。そのような人々に土砂災害が起こるとどうなるのか、その恐ろしさを分かってもらうことも土砂災害による被害を少なくすることに繋がるのではないかなと思った。

私の住んでいるマンションは山ではないがちよつとした斜面の上にある。今まで何回か大きめの地震が来たときそ



の斜面が崩れたことはないが、前にハザードマップを調べた際にその部分が土砂災害の危険がある、と書いてあった。今まで崩れていないからと言って次に崩れないかは分からない。私も大地震の際は能登半島地震による土砂災害の映像から学び、しっかりと情報を確認し土砂災害の危険があることを頭に入れて、周りの人と声をかけ合いながら悩むよりもまず避難しようと思った。また、私の父は土砂災害に少し関連する仕事をしているのでこういった場所が危険なのか、どのような対策をすると土砂災害が起こりにくいのかなど外からの土砂災害対策についても話を聞いてみて理解を深めたい。